

# B T U T S

ブ  
ツ  
ー  
タ  
ス

# 仏師を



## たずねる

仏像ってどんな人が彫ってるの？

仏師のホンネや仏像が出来るまでを

人気の若手仏師・紺野侑慶先生に聞いてみよう！

—— 一体彫るのにどれくらいかかる？

大きさなどにもよりますが一日8時間や  
ってほしい4ヶ月ほどですね。始めは  
粘土で作ったものに線を引き、それを木  
にも写します。昔から同じやり方で運慶  
も同じことやっていました。仏像を彫る  
人、水晶で白毫や玉眼を作る人、台を組  
む人、金具を作る人、4人掛かりで作っ  
ています。それからお坊さんが拜んで初  
めて仏像になるんですよ。仏師は神様が  
入るための入れ物を作っています。

—— 仏師になるまで

中学の修学旅行で京都の三  
十三間堂で心を打たれ、十  
五歳で富山の仏師の親方を  
紹介してもらい門を叩きま  
した。年定期で6年間修行してようやく  
職人扱いになり、その後親方の元で2年  
の親奉公（年期が明けたのちの感謝の気  
持ちでの奉公）をして独立するときの名  
前を貰いました。仏師の名前は一字伝承  
しており親方から貰った一文字は下の弟



子にはつけない事が多いのです。親方が  
侏琳で私は侏慶なので私に弟子ができた  
ら慶の字をあげることになります。

### — 仏師の一日

修行中は朝8時から  
5時半まで親方を手  
伝った後自分の作品  
を作っていました。

現在は朝から夜時ま



で教室で、お寺から依頼された仏像の修  
理や木彫の依頼なども受けています。

### — 仏師と仏教の関係

基本的なことは心得ていますが、関係な  
いんですよ（意外！）宗教を持ってしま  
うと宗派によって彫れる仏像も彫れなく  
なってしまう。

### — 影響を受けた仏師

湛慶（三十三間堂本尊の千手観音の巨像）、  
定朝（平等院本尊の木造阿弥陀如来坐像）

### — 彫ってみた仏像

等身大の毘沙門天。毘沙門天はやはり好  
きです。仁王像や天部を通称「あばれも  
ん」と言います。

### — 一番大変だった仏像

まだ彫刻刀も使えない頃に等身大の仁王  
像を手伝いました。手袋をしているのに  
仕上げながら汚していくので滅茶苦茶怒  
られました。あの仁王像は未だに忘れな  
いですね（笑）

### — 仏像ブームについて

波乱な時代ほど良い仏像が多く、鎌倉時  
代などは常識では考えられないような生



き死にがあり、そういう時代の仏像は政治に関わる仏像でもあり「何がなんでも」みたいな気迫を感じます。作る途中に亡くなられる方がいても遂行しなくてはならないわけですから思いが半端じゃないですよ。だからこそ今の若い方が見ても惹かれるものがあるのかもしれない。せん。

仏師って純粹に職人で、昔から続いているものを大切に伝承して行く仕事なのですね。先生、貴重なお話ありがとうございます！（ニャンピョウ）

## 佛師 紺野 侑慶

### 略歴

- 昭和55年 東京都目黒区に生まれる  
平成 8年 仏師・齊藤侑琳先生に内弟子として入門。井波木彫刻工芸高等職業訓練校に入学  
平成13年 同校卒業  
平成16年 独立し井波に工房を構える。齊藤侑琳先生より侑慶の佛師号を賜る



仏像彫刻・木彫刻教室  
侑心会

TEL.0763-82-5066 (侑心会事務局)  
<http://www.kanhoudou.co.jp/~school/>

【目黒教室】東京都目黒区上目黒 【神田教室】東京都千代田区神田司町  
※首都圏以外にもございます。お問い合わせください

# 「水月観音」

## マル秘報告



今日も今日とて仏像部。北鎌倉は東慶寺に、それはそれは美人な観音さまがいる！それも秘仏！との噂を聞きつけ、いそいそと会いに行ってみました。秘仏のため、事前に電話かハガキでの予約が必要ですが、この一手間がスペシャル感とトキメキを運ぶよチューチュートレイン。

書院（非公開）の玄関先で鐘を鳴

らすと「ドウゾ」と現れた案内のおばさまの後に従い、本堂を回り、水月堂へと渡ります。低い天井をくぐり、しんと冷えた畳

に上がると、その奥には鈍く光る金の仏壇。仏壇の窓は三つあり、正面右に誕生仏、左には聖徳太子二歳像、そして真ん中の大きな円窓からこちらを眺むる、嗚呼、水月観音！

水辺の岩に腰掛け、流れるように衣を垂らし、水面に映る月を眺める

本堂のご本尊は釈迦如来。



その姿、まっことたおやかな美しさに思わず「ほう」と溜め息が。おばさま曰く「水月観音という仏像自体が珍しいそうで。絵や掛け軸ではちよこちよこあるみたいですけど…」



像高34cm・全長54.5cmと、サイズ感も心地よい。

実に風流な状景ですね：「と、みなさんお思いになるんですが、実は捉えどころのない水面の月を必死で見つめ悟りを開こうと修行している姿なんだそうですよ」ふっくり魅惑の

ポーカーフェイス、修行の苦しさを感じさせない静かな佇まいに、しばし時間を忘れてみとれてしまいます。今お会いしているのにまた会いたい：「毎月通われる若い女の方もおられますよ。気に入って、こちらで結婚式を挙げられる方も年に三〜五組いらっしやいます。そのときはここ（水月堂）が花嫁の控え

室になるんですよ」すすす、すてきです。花嫁衣装に包まれて、観音さまと目を合わせ、おなごはひとりなにを思うのでしょうか。

最後に、照明を消し、自然光の中で水月観音とご対面。お昼過ぎ、日が落ちるにはまだまだ時間があるものの、部屋の奥はほの暗く、仏間には新たな陰影が浮かび上がっていました。観音さまの肌は黒めいて、眼差しは一瞬にして強さを帯びたものに。さっきまでの柔和さは消え、毅然とした、揺らぎない存在感に背筋が伸びました。修行、の二文字も今なら頭に浮かびます。こんなに表情

が変わるものだとはい：光と仏像の織りなす神秘！この美しき菩薩のリアルな変化、是非あなたの皮膚感覚と網膜で！（t a n y a）

## information

### 東慶寺

〒247-0062 鎌倉市山ノ内1367

TEL 0467-22-1663

<http://www.tokeiji.com/pc/>

※水月観音拝観には一般拝観料100円の外、別途予約&拝観料300円が必要です。

★「仏像特別展」2月2日(月)～4月11日(日)  
期間内は予約なしで  
水月観音さまに会える!

実は元尼寺で、駆け込み寺でもあったそうで。こちらは非公開の書院。



## 仏像やお寺を、 普段聴いてる音楽に当てはめてみる

やまんだ

どうもこんにちは、仏像部静岡駐在員・やまんだです。わたくし、仏像に関して自慢する程の知識があるわけでもないのですが、昔から温めてきた仏像に関する一人遊びを、この場を借りてご紹介したいと思います。それは…“仏像やお寺を、普段聴いてる音楽に当てはめてみる”というもの。

くだらないようで、仏像と音楽が好きな方なら「一人でニヤニヤ、みんなであるある」な楽しみ方のできる画期的な遊びなのです（自画自賛）。

例えば、世俗からかけ離れた広隆寺の世界観はまさにプログレッシブロックが目指したそれ。三十三間堂における反復の美学は、安直ですがテクノにおけるハードミニマルの快感と重なります。こういうノリで、適当に右脳で当てはめるだけ。単純ですね。

うまいことを考えて一人でニヤニヤするもよし、ピンと浮かんだ音楽を脳内再生しながらじっくり仏様に向き合うもよし。あなただけの、仏像と音楽の小粋なマリアージュを見つけてみま専科？



仏像部員による

# My Favorite 仏像

【弥勒菩薩】いわきりなおと  
「国宝マンガ 日本美術トゥナイト」  
<http://www.codomo-inc.jp/kokuhou/index.htm>



室生寺【十一面観音】  
大学☆5年生



蟹満寺【釈迦如来】  
お～ちゃん



【空也上人】  
tepei



【牛久大仏】  
ごんた





# 仏-1 グランプリ



イラスト：店橋花里

## 『仏-1グランプリ』の掟

選ばれし仏像好き5名による“イチ押し仏像”プレゼンのうち、いちばん心が動いた仏像に清き1票を入れるべし！投票は、厳正なるシールペタペタ方式で行います。壁に投票用ポスターをご用意してありますので、いちばん響いた「仏像名」を選んでシールをお貼りください。史上初(?) 仏像王座を決定するのは、ご来場のアナタ達です！



エントリー  
NO.  
1

仏-1  
グランプリ

ニャンピョウ  
(仏像部部长)



『雲中供養菩薩』

エントリー  
NO.  
2

ta-nya  
(仏像部副部長)

仏-1  
グランプリ



『聖観音菩薩』

エントリー  
NO.  
3

仏-1  
グランプリ

ささらさん  
(仏像部おとうさん)



『不動明王』

エントリー  
NO.  
4

仏-1  
グランプリ

佐藤康人先生  
(ぼくらの仏像センセイ)



『十一面観音』

エントリー  
NO.  
5

仏-1  
グランプリ

まんじまるさん  
(THE 仏像導師)



『日本全国五百羅漢特集』

好評  
販売中!

## The Quest For History 仏像イラストガイド

現代仏像研究委員会カンゼン

仏像61体を人気イラストレーターたちが、いきいきと今にも動き出しそうなタッチで描いています。この仏像はどんな性格だろうと想像しながら読んでみるのも楽しそう。巻末には仏像の特徴、印、歴史、仏像巡り旅などのわかりやすい説明も!